

住まいと暮らしの情報紙

第969号

2004年(平成16年)

5/21

5/27

週刊

タイムス住宅新聞

真心のおつきあ
有限会社
開南コーポレーショ
軍用地 売仲 買介
〒902-0063 那覇市三原3丁目20番5号 沖縄県知事免許(1)第32
☎098-855-414
FAX 098-855-6108 E-mail kainan@nirai.net



語らいの半戸外空間

玄関から見た屋内と隣接するデッキテラス。高い天井と鏡の効果で実際以上に広々として見える

撮影/高野生優・フォトアートたかの

広いデッキテラスから原生林を望む屋嘉比さん宅。7年越しの新築計画では、集いと自然が大きなテーマとなった。夫妻の山の日常をのぞいてみた。

(2・3・12・13面に関連)

お住まい拝見

屋嘉比さん宅
(名護市)

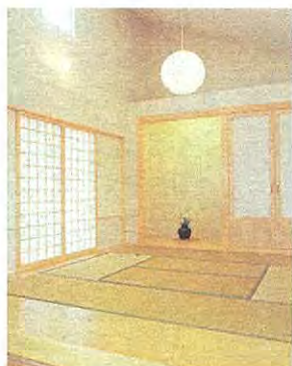
CONTENTS

- お住まい拝見 1・2
- 快適つくる裏方さん 3
- マネー 4・5
- うまんちゅトーク 7
- Books 7
- 語る空間 8
- ひと 9
- ニュース 9
- 第27回全沖縄盆栽展 11
- 自然を凝縮した秀作8席
- 空間Collage 12・13
- 不動産情報 14~18
- 賃貸フォーカス 19
- 住まい都市 20
- 都市の限界
- レベルupリフォーム 21
- 水と緑とお魚と。 23



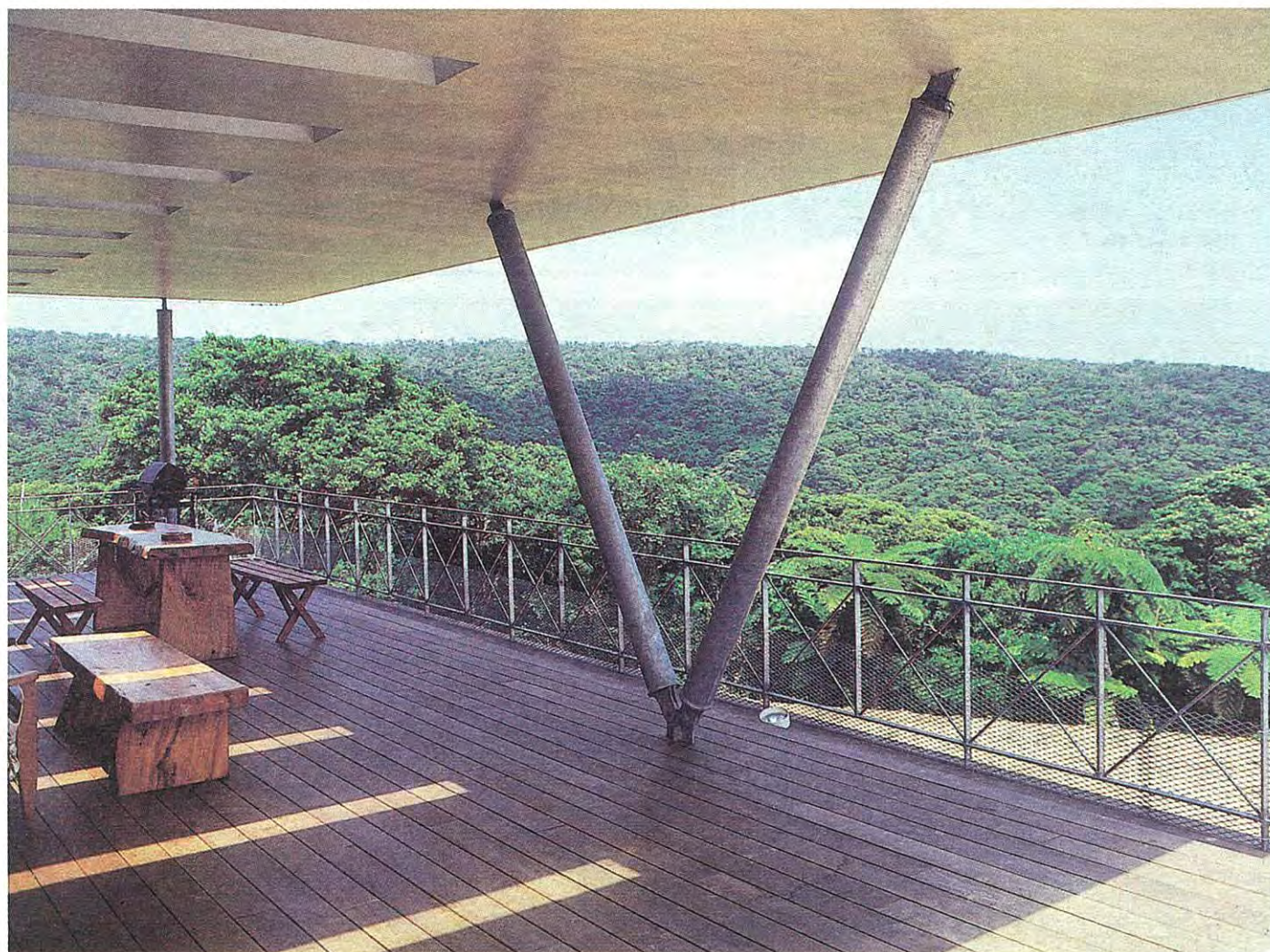
真南から住宅を見る。造成は最小限にして、傾斜する敷地にデッキを突き出すように設けた

リビングに隣接する和室。座ったときの目線に合わせて障子は低く抑え、高い天井ながらも、しっとりとした雰囲気に仕上げた



DATA

家族構成：夫婦
敷地面積：1442.28㎡（約436坪）
建ぺい率：8.3%（許容70%）
1階床面積：101.11㎡（約30.6坪）
容積率：7%（許容400%）
用途地域：無指定
躯体構造：鉄筋コンクリート造
（一部 鉄骨）造
工期：2003年6月～2003年12月
設計：(有)チーム・ドリーム
／福村俊治、具志好規
施工：(有)山川組／山川和男
電気・水道：(有)名桜電水／比嘉誠



デッキテラスから手つかずの原生林を望む。視界いっぱい広がる緑が屋嘉比さん夫妻の健康の素。友人や親せきと集い、話らい、食することも増えた

緑の海を望む日常

■テーマは自然と集い
玄関に入ると、自然に足が奥へと進む。リビングの高い天井とその先に広がるデッキテラス。眼前には深い緑の海。へゴの木が葉を揺らすさまに、古生代にタイムスリップしたかのような錯覚におちいる。
「この眺めにひかれ、七年前から家を建てたいと考えていました」と話す屋嘉比さん。横では夫人が深くうなずき、「この眺めに癒される毎日。完成して半年ですが、日ごと健康になっている気がします」とほほ笑む。

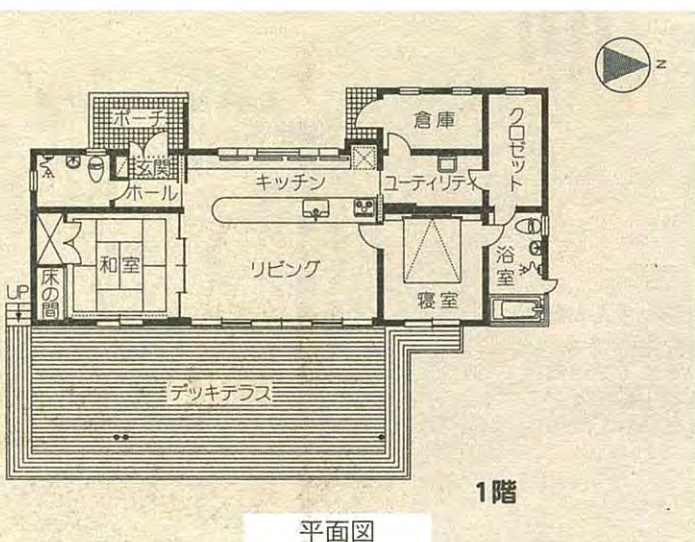
建築士とは、共通の友人を介して交友を深めてきた間柄。イメージの共有に、そう時間はかからなかった。テーマは「自然と集い」。眺望に焦点を当て、デッキテラスの向きや高さを慎重に決定していった。「脚立に上って、このくらいの高さならこう見えるという具合に、眺めを確認していき

ました」と振り返る。デッキテラスは居住空間とほぼ同じ広さを確保し、手つかずの緑を生活に取り込むことに成功。第二のリビングどころか、「一日の大半を過ごす大切な場所」となっている。

■主張せず周囲に溶け込む

「飲みに出ることはぐっと減り、友人や親類を招き、緑や風をつまみに語らう機会が増えました」と話す。季節の移ろいにも敏感になり、太陽とともに起きる生活が日課となっている。「冬は山と山の間から日が昇るんです。今年の初日の出は自宅で見ました」と満足げ。

「部屋は必要最小限でシンプルが一番。周囲に溶け込む家何より自慢です」。デッキ中を元氣よく駆け回る愛犬パピーの姿に目を細める夫妻の様子は、幸せそのものだった。



平面図

1階

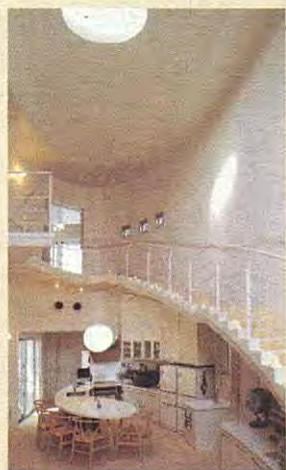
基本の3本柱

沖縄で建築する際、①気候に対応、②安く、③長持ち—は基本と、福村さんは言う。敷地の形はなるべく壊さず、間取りはシンプル、建物の面積は必要最小限に。室内の快適性は周辺環境の恵みをふんだんに生かして設計。建物の弱点を補う事前対策から後々のメンテナンスに至るまで、ローコストを基本に、長年にわたって住む人を思う大事な視点という。

長男宅の新たな集い

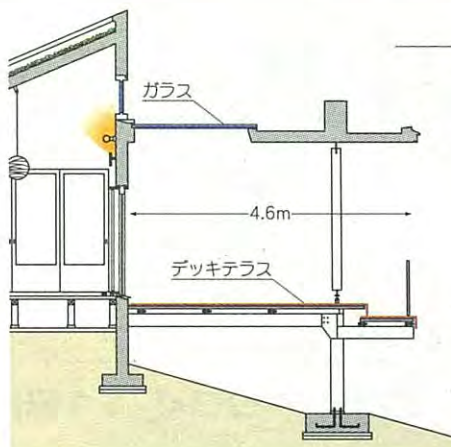
親類縁者などが集まる機会が多い長男の家。長男宅では、通常、和室の二間続きなど、室内に広間が必要とされるが、ここで集いの場の発想を変えてみよう。デッキやコートと、リビングや和室を隣接させて外に開かれた大空間をつくると、ガーデンパーティーが楽しめる、おしゃれなスタイルも実現。沖縄の気候なら、年間を通して利用でき、開放的な場ならコミュニケーションも広がりそう。

密集地は天井開けよう



壁に窓が取れない住宅密集地なら、天井を開けて空を取り込もう。どんなに厳しい敷地条件でも、沖縄ならどこにでも豊かな自然があるから、頭上の空、隣家の庭など、いかようにも取り込み、快適な空間がつけられるという。どのように利用するか、イメージを広げてみよう。

ように利用するか、イメージを広げてみよう。



快適つくる裏方さん

今週のお住まい拝見より

気候風土と一体となる半戸外的空間の活用

屋嘉比さん宅を設計した福村俊治さんは、「沖縄で住宅をつくるなら、恵まれた自然環境と住む人とが一体になれる空間の工夫が大事」と語る…そんな設計の意図を聞いてみた。

〃沖縄ならではの〃を逃すな

景色ですね！
A この景色を大パノラマでとらえ、より近くで体感できるよう提案したのがプランの中心。とにかく外で過ごせるようにしました。崖地はあえて造成せず、自然な地形に添うように建築し、配置や高さを決めるに当たっては、実際に縮尺模型を現地に置いて確認していきましました。

Q 広いデッキスペースは眺めを遮らないという工夫したようですが。
A デッキの先端は床を一段下げ

て自然を満喫できるよう提案しました。鏡は、対照的な面とラインを映し、奥行きを出すのに効果的です。また、開口部も、玄関は一部すりガラスを用い、適度に借景が映り込むよう工夫。キッチン側の窓も同じで、見せたい景色に位置を合わせて窓を設け、見せたくない足元は収納に。全部見えても面白くないでしょ。

Q 室内が真っ白なのは？

A 空の移り変わり、光の動きを美しく映り込ませるのに白い色は向いています。夕日の色もきれいに映しますよ。

に映しますよ。

Q 室内をペンキ塗装としたのは？

A ペンキは安く、壁をコーティングして長持ちさせるのに効果的。RC造はいかに空気を遮断し、中の鉄筋がさびないようにするかが肝心。基地内の建物が長持ちしているのはなぜか：要因を考え、メンテナンスのしやすさも参考に。また、湿気や結露による劣化を考慮すると、内部は壁材や天井を張らないほうがいいでしょう。

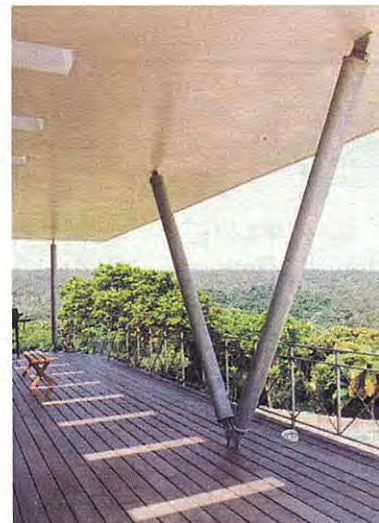
Q 沖縄特有の気候に合ったライフスタイルが基本ってことですね。

A 自分の家のプランは自分の中にあり、立地する環境の中にあらず、雑誌やテレビの情報に流されず、身近な自然に目を向けてほしい。北欧でも東京でもない、沖縄の自然を受けての豊かな暮らしはここに暮らす人々の特権なのですから。好条件を逃さず、沖縄ならではの快適な住まいづくりを実現してほしいですね。

景色取り込む、構造・デザインの工夫

デッキスペースの軒の出は、なんと4.6m。大きな影で包まれる涼しげな半戸外的空間は、広大な樹海（景色）と室内とをつなぎ、涼やかな風の通る開放的な集いを実現している。

この開放的な空間を生み出したポイントは、大きな軒を支える鉄骨柱のデザインにある。軽いラインが強調でき、強度のある鉄骨柱は、一部、V字型にデザインして柱の本数を減らし、視界を遮らないよう工夫。造形的な楽しみも加えている。



県産品RC造 空気に触れない工夫を

RC造については、コンクリートの材料となる砂利や砂など、その大半が県内で産出されている。福村さんは「沖縄で建築するなら、県産品のRC造がいい。ローコストでライフスタイルや環境になじむ多様なつくりが可能です」と話す。その際、「コンクリート面は必ず外装して保護しなければならない」と注意を促す。

高温多湿、海塩粒子量が多い沖縄の気象環境は、鉄筋を腐食させるのに最も都合がいい環境にあると言われている。そこで外壁は、塗装やタイルなどを施してコーティングし、空気にいかに触れないようにするか、十分な検討が必要となる。

また、コーティングすることで断熱効果も上がる。外壁から伝わる日射による熱量は、外装に使用する素材や色で変わるよう。下表の日射吸収率を参考に、外装を検討してみよう。数値が小さいほど、吸収率は低い。

黒ベンキ・アスファルト	0.9
コンクリート（明るめ）	0.6
レ　　ン　　ガ	0.5
クリーム色ベンキ	0.4
白　色　ベン　キ	0.2

屋嘉比さん宅は外装に白のタイルを施した。白くて厚みのあるタイル張りとした場合、いかにRC造の劣化を防止し、断熱効果が大きいかが分かる。

参考資料：「沖縄の住居」鈴木雅夫著（ニライ社）

眺望確保の粋な計らい

手すりが視界を遮らないよう、デッキ面を一段落として手すりを設置。「いすに座った際の眺めを意識し、手すりの高さにも配慮しました。安全上低くするわけにはいけないので、段差をつけて対処しました」と建築士。存分に眺望を楽しめるようにとの粋な心づかい。バーベキューなど人がたくさん集まるときには、その段差が腰掛け代わりになるスグレモノ。

長ぶろ誘う快適浴室

浴室からも緑が見える。夜は木々をライトアップ。「長ぶろになりました」と夫妻。

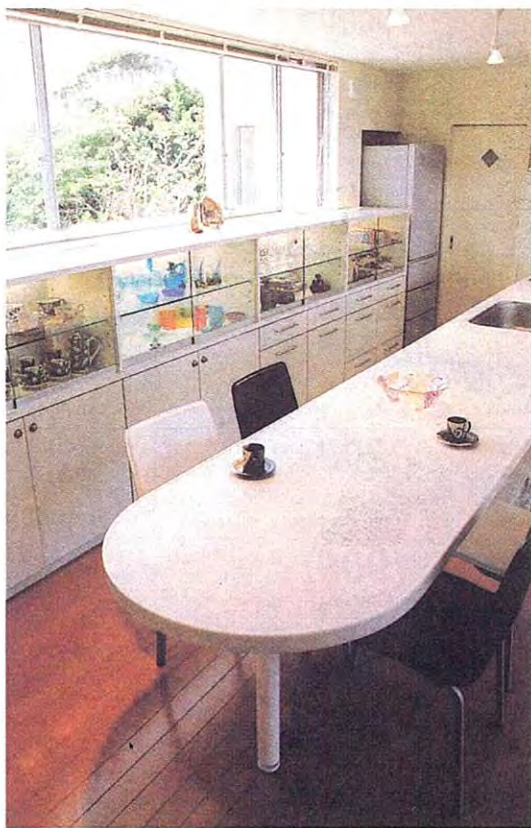


印象すっきりキッチン

キッチンの作業台をそのまま延長させたダイニングテーブル。白のテーブルや収納などが清潔感あふれる一角。カップ類は見せる収納でおしゃれに。窓の向こうにも山々の連なりが見え、シルバーのサッシに収まる天然絵画のよう。



空間Collage コラージュ 自然を感じる仕掛け満載



ダイニング→キッチン→ユーティリティ(洗濯室兼日用品収納室)→クロセットと一直線に配置され、家事動線が短く便利。

シンプル動線で楽々

見せる収納でおしゃれに

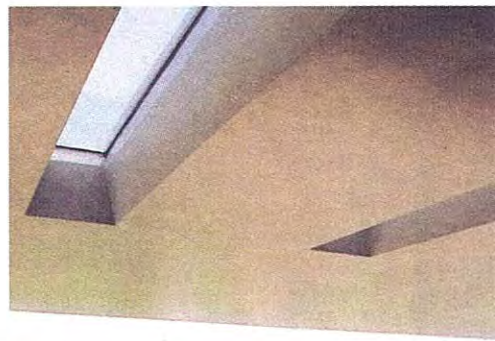
見せる収納棚の奥には、カップを美しく照らす照明を設置。夜はダイニングがおしゃれなバーに変身する。

「山の日常、を楽しむ屋嘉比さん夫妻。一日の大半をデッキテラスで過ごすというが、屋内にも自然を感じる仕掛けがいっぱい。緑を望む住まいをもっと見せてもらおう。



周囲に溶け込む芝屋根

傾斜屋根を芝で緑化し、ふく射熱を緩和。断熱のほか、山に囲まれた建物を周辺と調和させる効果も大。芝の成長を抑えるため、屋根は砂利敷き。「養分は最低限に。手入れいらずで楽に緑化できます」と建築士。暮らしの中では、無理なく維持できることが大事。



デッキテラスを覆つ深い軒（のき）のおかげで、日差しや雨を気にせず行き来できる。内と外を柔軟につないでおり、デッキの活用度に大きく貢献。スリットから差し込む、ほど良い光に誘われてデッキに出ることもあるという。

活用度を高める軒

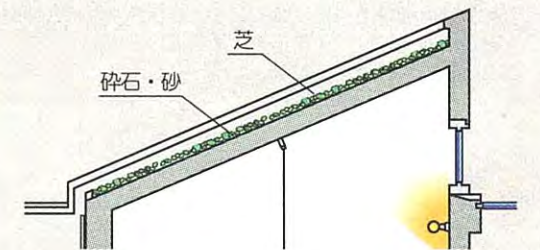
安い！屋上緑化の方法

断熱効果があり、景観にも配慮した手法として、最近、注目される屋上緑化。しかし、コストが割高でなかなか取り入れられないと悩む方も多いのではないだろうか。

屋嘉比さん宅の場合、土は入れずに、碎石と砂を半分づつ混ぜ、屋根スラブから約10センチほどの厚みで敷いた。芝が伸びすぎない範囲の養分しかないので、雑草が生えるのを抑える。「屋上に程よく緑面がほしい、草刈などのメンテナンスができない!、という方にお勧めの手法。

設計者の福村さんは「費用は1㎡約1000円くらいです。万座毛にある芝の原っぱをみたことがありますか、海岸の厳しい環境でわずかに生える芝を見てヒントを得ました」とアドバイス。

沖縄に暮らすヒントは自然が教えてくれる、そんな視点でドライブするのもいいのでは。



屋嘉比さん宅の屋根スラブ断面を拡大。屋根に碎石と砂を敷き入れ、芝を張っている。沖縄の気候では、芝も雑草も伸び放題で大変! しかし、土を使わないこの手法だとそんな事態を避けられる

ローコストとメンテナンスを考慮した独自の緑化方法、試してみたいかが